

批判思考トレーニングとしての 大学英語教育 —「英語オーラル」の授業実践—

石川慎一郎
iskwshin@gmail.com
神戸大学

10年前の衝撃:レゾンデートルを求めて

- 大学改革の立案にあたり外部コンサルより意見を求める
- 教授や博士に「英語」を教えさせるのは資源の無駄
- 英語教育はインストラクターで良い
- 「教授や博士が行う大学英語教育」の意味をどう定義すればよいか?



「理想の英語教育」は環境変数の関数

- 1) ネイティブでない日本人が
- 2) かつ、英会話講師でない研究者が
- 3) 英会話学校ではない、研究大学である神戸大学において
- 4) グローバル社会の牽引を目指す神戸大生相手に行う
.....そんな英語授業における「理想」の方向とは？

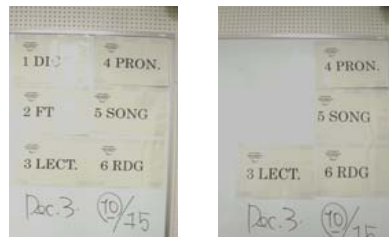
学生の姿をよく知り、強みを引出し、弱さを補う

- 英語の基礎力は十二分にあり、総じてまじめで勤勉だが、授業の90分を持て余し気味で、英語観に偏りがあり、基本的な発音指導を受けておらず、聴取・発話の自信に乏しく、協働作業が苦手、世界情勢への関心に乏しく、平板型・ステレオタイプ型思考に安住
- [1] **モジュール制**の採用
- [2] **国際英語**の理論枠組みの指導
- [3] 基本的な**発音指導**の徹底
- [4] 豊富な**L&S機会提供**
- [5] 個人活動と**協働学習**の組み合わせ
- 海外ニュース素材の使用
- [6] **概念衝突型思考訓練**

1/6 モジュール制 15分なら、休んでいる暇がない

活動内容	活動単位	タスクと形成的評価 (30点/回)
1. News Dictation 時事ニュース(課題)の聞き取り	個人	課題音声の穴埋めテスト 【個人:10点】
2. Free Talk ニュース内容について会話	ペア	上記に関連したテーマを示し、自由トーク
3. Lecture 英語発音についての講義	個人	英語子音の発音についての講義を聞く
4. Pronunciation Test 当該発音のテスト	個人	当該子音の発音テスト 【個人:5点】
5. Song Listening グループでの歌詞の聞き取り	個人、グループ	歌詞の穴埋めテスト 【グループ:10点】
6. Passage Reading 歌手に関する英文の読み取り	個人、グループ	英文の穴埋めテスト 【グループ:5点】

今何をしているのか、あとどれだけか?



2/6 国際英語 授業の中で学ばべき「英語」を明示化する

- 1) 初回の授業で、KachruやJenkinsの論文を紹介
- 2) リンガフランカとしての英語の地位とNNSの関係を理解させる
- 3) すべての授業を英語で行うことで、国際英語を仕事的手段として使う日本人のロールモデルを示す
- 4) 言語の支配性・帝国性・多重アクセス権への配慮(口頭は英語、提示は日本語)
- 5) 発音指導においては、NSモデルとLFモデルを示す(thのt/d置換)

3/6 発音指導 理屈で説明し、きちんと理解させる

- Jenkinsモデルに従い、子音に特化して指導を実施
- 「習うより慣れる」でなく、理解と納得を重視(※理系学生のニーズ)
- 「さしすせそ」の二重性
- なぜthはsよりもtに近いのか?(口腔内の舌の位置)
- なぜ日本人のdがtに聞こえるのか?(破裂音の真の意味)
- 全員の前で読み上げる発音テストでその場で採点。

4/6 L/S機会提供 多様なオーラル体験の組み合わせ



5/6 協働学習 「グループワークは不公平」と言う今どきの学生だからこそ

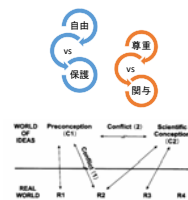
- 入試の悪弊で排他的個人主義に走りがち
- しかし、仕事の英語は、チームワーク
- 授業の中に個人でやる作業と集団でやる作業を交互に埋め込む
- リーディング(歌手の背景:穴埋め)
- 1分間個人リーディング
- グループ相談
- グループでの統一回答の決定
- <共同作業・共同責任>

1. News Dictation	個人
2. Free Talk	ペア
3. Lecture	個人
4. Pronunciation Test	個人
5. Song Listening	個人→グループ→個人→グループ
6. Passage Reading	個人→グループ



6/6 概念衝突型思考訓練 グローバル社会を生きる学生の基礎力はなにか?

- グローバル思考の要諦は批判思考・多元思考
- 自己・定説・通説を相対化する視点
- 自身の思考のステレオタイプ性の意識が重要
- 概念衝突理論(Hashwey 1986)



- M1(時事ニュースのディクテ)とM2(Free Talk)の流れ
- 1) サウジの女性抑圧のニュースを聞く
- 2) 実例を示し、反応を引出す(「男女平等」)
- 3) イスラムの論理を学び、欧米側・イスラム側に分かれて複合討論を行わせる
- 4) 「イスラムの女性抑圧」「男女平等」「異文化理解の尊重」といった一連の定説の相対化

授業の品質管理(QC)

- 学期末授業評価の無意味さ
- 改善のチャンスがない

- 自主的中間授業評価の実施
- 無記名式。数値評価、プラス点、マイナス点の自由記述。
- 批判も含めてすべて公開。
- 評価結果に基づき、後半授業を改善する。

今後の展望

- 1) 学生のロールモデルとして、(拙くとも)自分自身が「仕事で英語を使う日本人」であり続ける(国際共同研究、国際学会等)
- 2) すぐれた教育の前提となる高度な研究力を磨く(L2学習者分析、国際コーパス分析、グローバル教育指導法開発、思考訓練法)
- 3) 経験を過信せず、教育と科学の接合を目指す
- 4) 高校でも英語学校でもない「大学での」英語教育の模索を続ける

- 教室の中からGlobal Excellence in Research and Educationを目指す

参考資料

- 石川慎一郎(2014a)「英語教育における異文化理解教育の課題と展望:文化の定義の再考と異文化理解教育の発達段階別多層モデルの提案」『外国語教育と異文化間教育』(東京外国語大学世界言語社会教育センター)
- 石川慎一郎(2014b)「テキストマイニングによる学校教育目標としての「グローバル人材」の再定義」塩澤正他(編)『現代社会と英語:英語の多様性のみつめて』(金星堂)
- 石川慎一郎(2014c)「グローバル意識の可視化手法の検討:テキストマイニングの応用可能性をめぐって」日本グローバル教育学会(2014.9.7 @宮崎大)発表資料